

## 農村地域における地蔵祭りの機能 —小矢部市宮島地区を事例に—

人文地理学研究室 4年 林聡美

### はじめに

近年、日本では人口減少や少子高齢化によって  
高齢者の孤独死などの増加が危惧される



コミュニティが正常に機能することで防止

栗原ら(2006) 伝統行事や町内会などを活用する  
ことがコミュニティ活動促進に有効



**地域行事を上手く利用することは  
地域のコミュニティの維持と安定化に必要**

### 先行研究

小西(2014) 「フェイス・ツー・フェイス」の関係と  
共同作業がコミュニティ内の繋がりを  
を形成する(長野県:御柱祭)

小谷ら(2015) 地域行事で出会った相手とはそうで  
ない相手よりも強い紐帯を結ぶ  
(兵庫県:縁日・地蔵祭)

**地域行事の機能…コミュニティの創出・維持  
「祭り」が果たす機能に注目**

### 先行研究 (地蔵祭りを取り出す意義)

竹内ら(1999) 地蔵は「町の境界」「コミュニティ  
の単位」「個人的な信仰」を表す

小谷ら(2015) 地蔵盆は属性が似た者同士の紐帯を  
強める

**地蔵はコミュニティ形成・維持に強く関連する  
→農村部の研究は進んでいない**

### 先行研究 (祭りの形式)

和崎(1996) 現代の祭りは「幅広い参加様式を容認し、  
異質性や多様性を基本的に包摂する」

有本(2012) 「共同体の外縁を拡大することで生き残り  
を図っている」

佐藤(2016) 祇園祭では「アルバイトを中心に人員確保が  
行われる」

**祭りの範囲を広げることで行事を維持…都市部  
⇔ より高齢化の影響を受ける農村地域では？**

### 先行研究 (祭りの主体)

中谷ら(2012) 近年の祭りは「子供主導型」から  
「大人補助型」「大人主流型」に変容

**…都市部 ⇔ 農村地域の研究は進んでいない**

### 先行研究 (農村部の祭りを研究する意義)

武藤(1976) 日本の農耕社会は共同体の協力を前提とし、団結力は強くなり、構成員は共同体に帰属する

**農村地域は自給的・閉鎖的空間である**  
→農村地域の祭りが拡大するとは考え辛い

### 研究目的

高齢化の進む現代に、「高齢者による地蔵祭り」に関する研究は行われていない  
↓  
現代の祭りと地域社会との関連について捉える

**小矢部市宮島地区における地蔵祭りの機能を明らかにする**

### 地蔵祭りについて

- ▶ 「地蔵盆」「地蔵祭」の名称で全国各地で行われる
- ▶ 堂から祭壇に移動され、祀られる
- ▶ 大森(1998) 地蔵盆は「祖霊祭」であった
- ▶ 林(1997) 地蔵盆の主な目的は「子供が遊ぶこと」
- ▶ 相澤(2005) 地蔵は「場所の記憶」を持つ  
→地蔵祭祀が行われる動機は「地蔵の記憶」

### 宮島地区における地蔵祭りと年中行事

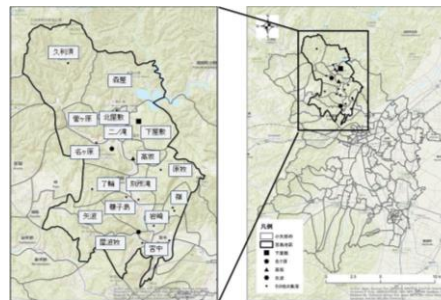
〈宮島地区の地蔵祭り〉

- ▶ 8月24日周辺に開催
- ▶ 持ち回りで世話役を担当
- ▶ 地蔵を家庭に運搬し、子供たちが飾り付け

〈その他の年中行事〉

- ▶ 春・秋祭り…農業繁栄を祈る氏神祭り
  - ▶ 田祭り…田植えに関係する人々の休日
  - ▶ 彼岸会…浄土真宗大谷派の祖霊祭
- など

### 調査対象地域概要



### 調査対象地域概要

【小矢部市宮島地区】

1962年 世帯数202 人口総数905  
2017年 世帯数174 人口総数474

→人口減少が進んでいる  
= 独居老人の増加

現在地蔵祭りが行われているのは名ヶ滝・高坂のみ

## 調査方法

### 〈調査対象〉

地蔵祭りが行われている2集落、過去に地蔵祭りを経験した集落に居住する高齢者4名

### 〈調査内容〉

個人の属性、地蔵祭りをを行う上での役割分担や地蔵祭りの思い出を中心に聞き取り

→住民にとってどのような存在であったかに注目

## 調査結果と考察

### ①祭りの主体について

- A「今は大人ばかりでやっている」
- B「今は子供がいらないからお地蔵さんの前にみんなが行って『ごくろうさまでした』で終わり」
- D「昔は子供たちだけの祭りだった」  
「25歳以下は部落には一人もいない。地蔵祭りは毎年あったけど人がいなくなったから去年からやめた」

→「子供の祭り」から「大人の祭り」に変化

## 調査結果と考察

### ②祭りの形式の変化

- B「今は子供がいらないからお地蔵さんの前にみんなが行って『ごくろうさまでした』で終わり」「高坂では昔8月25日に決まっていたけど、今はみんなの都合がいい日にする」

→地蔵祭りの形式より、「集落ごとの祭りを継続させること」を重視している

## 調査結果と考察

### ③祭りに対する認識（幼少期）

- C「子供のころはバナナとか食べていた覚えがある。それを楽しみにしていた」
- D「バナナなんかもなかったからお祭りでは最高の料理が食べられた。子供たちはスイカ飾ったり、それを食べるのが楽しくてやっていた」

## 調査結果と考察

### ③祭りに対する認識（現在）

- A「信仰心あるない関係なしに、地蔵祭りに行って、皆さんの元気な顔が見れてよかったなという感謝の思い」「行ったらほっとする」「終わったときにご苦労様でした、また来年ですぞと言って上がっていく」
- B「地蔵盆をしなくなって近所の関係性が薄くなってきた気がする」

→幼少期と思い出が変化

## 結論

- ▶ 「子供の祭り」から「大人の祭り」に変化
- ▶ 地蔵祭りの形式より、「集落ごとの祭りを継続させること」を重視している
- ▶ 幼少期と思い出が変化

地蔵祭りは集落内で完結するものであるため、形を変えてまで「集落の人と」祭りをしなければならない

「集落の人と」した体験の「記憶を共有」し、「追体験」する機能を持っている